

2015年9月24日

実践総合農学会会員 各位

実践総合農学会
会長 三輪 睿太郎

2015年度実践総合農学会第10回地方大会（大子町）の開催について

拝啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は実践総合農学会に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてより検討を重ねてまいりました2015年度実践総合農学会第10回地方大会を茨城県大子町で開催することになりました。

茨城県の県北地域最北端に位置する大子町は、南北に長いひし形をしており、総面積は325.76km²と県全体の約20分の1を占める広大な町です。町域面積の約80%が八溝山系をはじめとする県内有数の山岳地帯を形成しており、この山あいから流れる中小河川に沿って、狭隘ながらも耕地が開け集落を形成している典型的な中山間地域といえます。こうした豊かな大自然を有する大子町には、日本三名瀑の一つに数えられ、高さ120m幅73mの、四季折々に姿を変える袋田の滝（註参照）や清流久慈川を利用した「やな」などがあり、県下有数の観光地となっています。

平成27年に町制60周年を迎えた本町の人口は、合併当時から大きく減少し、かつ高齢化率が4割近くにまで達しています。このように過疎化、高齢化、少子化等の大きな問題を抱えている大子町では、町の経済活動や地域活力の向上と、元気で住みよいまちづくりに多面的に取り組んでいます。特に、農林水産業では、県内第3位の広く豊かな自然条件を活かして品質の優れた多様な農産品（後述「シンポジウムのねらい」参照）が生産されており、町ではそうした農産品を大子町農産品ブランド「だいがみ」という認証制度を立ち上げるなどして、町の農林業を振興し、地域活性化を図るために、大子町の農産物の魅力を広く発信する取り組みを推進しています。

このような茨城県下の自然豊かな大子町において、本学会の地方大会を開催することは、本地域としての活力あるまちづくりを考える上でも、広く中山間地域の活性化対策を考える上でも、またとない実践的な調査・研究の機会を提供することができるのではないのでしょうか。

つきましては、何かとお忙しい時期とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

なお、地方大会準備等の都合がありますので、参加ご希望および個別報告を希望される方は、別紙の参加申込書にご記入の上、FAX、郵送もしくはEメールにて、10月16日（金）までに事務局へお申し込み下さいますようお願い申し上げます。

なお、個別報告を希望する会員の皆様につきましては、別紙の個別報告要旨作成要領をご参照いただき、報告要旨原稿を10月23日（金）（必着）までに事務局宛Eメールもしくは郵送にてお送りいただきますようお願い申し上げます。

敬具

（註）袋田の滝は、帰りの送迎バスで立ち寄る予定ですので、ご期待下さい。

プログラム

- 開催日時：2015年11月21日（土）13：00～（12:30 受付）
2015年11月22日（日）9：00～

- 開催場所：太子町文化福祉会館「まいん」
〒319-3526 茨城島久慈郡太子町大字太子 722-1（後段の地図を参照）
TEL (0295) 72-2005

第1日目 11月21日（土） 基調講演・シンポジウム

- ◆受付 12:30～13:00
- ◆開会 13:00
- ◆会長挨拶 実践総合農学会会長 三輪 睿太郎 13:00～13:05
- ◆来賓挨拶 太子町長 綿引 久男 13:05～13:10
- 茨城県農林水産部部長 鈴木 哲也 13:10～13:15
- 東京農業大学学長 高野 克己 13:15～13:20
- ◆基調講演 13:30～14:10
特色ある農林水産物を活用した地域活性化の展開方向
東京農業大学教授 宮林 茂幸
- 休憩 14:10～14:30
- ◆シンポジウム 14:30～17:30
テーマ：農林業振興による地域活性化

ねらい：

中山間地域に位置し、広い町域と豊かな自然条件を有する太子町では、その地域特性や自然資源を活かして、多様な農林水産物が産出されている。代表的な特産品に限っても、太子産米、奥久慈茶、奥久慈しゃも、奥久慈りんご、こんにやく、常陸大黒、奥久慈鮎、太子漆、あるいはそれらを利用したアップルパイなど加工品のよう、多様性に富みきわめて品質の優れた特色のある「地域ブランド」的な要素の高い農林水産物が生産されている。町では、こうした特産品に対するブランド認証制度の導入等、特産品の市場化、付加価値化やそれを活かしたまちづくりや地域活性化に取り組んでいるが、いまだ課題も山積している。

特に、袋田の滝に代表される観光資源と比較すると、中山間地域という制約のため、十分な生産量の確保や生産の効率化が難しく、太子町の豊かな農林水産資源が広く都市住民や消費者に認知されているとは言い難い。この地域にある潜在的な資源（農林水産物の発掘）の利活用、あるいは既存の資源の結合によって、新たな地域特産品の商品化や市場化を進めるなど、農林業振興対策を講じ、新たな地域おこしの切り口とすることで、太子町の地域活性化に結びつけることが、本町が直面する重要な課題ではなかろうか。

本シンポジウムでは、太子町特有の多様な農林水産資源を発掘するとともに、それを

どのような形で六次産業化などによって付加価値を付け、商品化や新たなビジネスにつなげていけば良いか、あるいはそうした資源を活かした都市農村交流のあり方などについて明らかにしていく。そのため、こうした分野に精通した研究者、県、地元からの報告を踏まえつつ、地域リーダーたる参加者の皆さんと一緒に、知恵やアイデアを出し合うことで、農林業振興による地域おこし・地域活性化の実践的かつ総合的な糸口を探ることを目的とする。

プログラム：

座長解題	シンポジウムのねらい 東京農業大学教授 北田 紀久雄	14:30～14:40
第1報告	わが国の農産物消費の基本的特徴と地域特産物の販売方策 東京農業大学教授 大浦 裕二	14:40～15:10
第2報告	茨城県県北地域における農山村の活性化について 茨城県農林水産部農地局農村環境課係長 大津 豊	15:10～15:40
第3報告	大子町における高品質農林水産物による地域振興 大子町農林課特産品販売室室長 藤田 貴則	15:40～16:10
	休 憩	16:10～16:30
	パネル・ディスカッション	16:30～17:30
◆交流会	～大子町の特産物・郷土料理を満喫する～ 会場：大子町文化福祉会館「まいん」観光交流ホール ※郷土料理：農産品加工グループ「奥久慈の味研究会」 ※郷土芸能：予定	18:00～20:00

第2日目 11月22日(日) 地域農業の取り組みと個別研究の発表

第1部 地域農業の取り組み（座談会） 9:00～10:00

話題提供者：佐川 明宏（りんご農家（佐川果樹園）、農大農学科 OB）
伊澤 孝文（奥久慈しゃも生産農家、都会からの新規就農者）
高信みどり（お茶農家（高見園）、高見カフェ経営、女性農業士）

司 会：未 定
内 容：大子町における地域農業（農業自営）の現状と課題

第2部 個別研究の成果発表

◇地元高校生による研究成果発表 大子清流高等学校森林科学科、総合学科の生徒による「課題研究」の発表	10:00～10:30
◇学会会員による研究成果の発表	10:30～12:00

●参加費・交流会費

大会参加費（学会員）	3,000 円
大会参加費（一般参加者）	無 料（印刷資料が必要な場合は 1,000 円）
交流会費	4,000 円（学生 2,000 円）

●バスの送迎

水戸駅⇄太子間の送迎（無料）を行います。希望される方は、参加申込書の該当欄に○を付けてください。行きは 11/21（土）9：30 水戸駅発、帰りは 11/22（日）学会終了後、水戸駅までお送りいたします。（途中、袋田の滝を観光の予定、ただし見学科は各自負担）

バスを利用される方は、11/21（土）9：30 水戸駅南口にお集まりください。

※上野駅 8：00 発、水戸駅 9：18 着の特急をご利用ください。

具体的な集合場所等については後日、参加者にメールでご案内いたします。

●その他連絡事項

宿泊の手配は各自で行ってください。観光シーズンのため、早めに予約されることをおすすめいたします。

太子町文化福祉会館「まいん」への交通アクセス（電車の場合）



上野駅から J R 常磐線特急で水戸駅に出て、J R 水郡線に乗り換え常陸太子駅までお越しください。会場は常陸太子駅下車、徒歩 1 分です。

<連絡先>

2015 年度実践総合農学会 第 10 回地方大会（太子町）実行委員会事務局

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学総合研究所内

担当：北田 紀久雄・仲上 貴志

TEL.03-5477-2532 FAX.03-5477-2634 E-mail.nri@nodai.ac.jp